

# シラバス

【訓練科名】 介護職員初任者養成科

【実施機関】 株式会社 スキル

【実施施設名】 スキルパソコンスクール

科目番号	1 職務の理解（10時間）		
指導目標	研修課程全体の講義と各研修科目相互の関連性をイメージできるように指導する。 介護職が働く現場や仕事内容を理解させる。		
項目番号	規定時間数	実施時間数	講義内容・演習の実施方法
①多様なサービスの理解	6	5	介護保険や保険外サービスについて講義を行い身近なサービスを含め理解を深める
②介護職の仕事内容や働く現場の理解		5	居宅、施設のサービスの提供現場における、それぞれの仕事内容ケアプラン作成からサービス提供に至るまでの一連の流れと周辺知識の理解を深める
使用する機器・備品等			

科目番号	2 介護における尊厳の保持・自立支援（10時間）		
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防と言う介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動列を理解させる		
項目番号	規定時間数	実施時間数	講義内容・演習の実施方法
①人と尊厳と支える介護	9	5	介護の目標や展開における、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方について理解を深める
②自立に向けた介護		5	利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うこととの違いを理解する、自立という概念の理解
使用する機器・備品等			

科目番号	3 介護の基本（10時間）		
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとと対応策のうち、重要な事柄を理解させる 介護に必要な人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができるようにする		
項目番号	規定時間数	実施時間数	講義内容・演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	6	2.5	家族による介護と専門職による介護の違い、介護職としての役割、サービスごとの特性、医療・看護・との連携
②介護職の職業倫理		2.5	介護職の職業倫理の重要性 利用者や家族と関わる留意点
③介護における安全の確保とリスクマネジメント		2.5	生活支援の場における典型的な自己や感染 介護における主要なリスクの把握
④介護職の安全		2.5	介護職に起こりやすい健康障害やストレスマネジメントとその留意点・対処法
使用する機器・備品等			

科目番号	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（12.5時間）		
指導目標	介護制度の創設、仕組み、財源などの各機能と役割を理解する 医行為の考え方を知り医療との連携についての知識を習得 障害者制度と権利を学ぶ		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①介護保険制度	9	2.5	生活全体の支援の中で介護保険制度の位置付けと、各サービスや地域支援の役割、介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担、ケアマネジメントの意義、代表的なサービスの種類と内容と利用の流れ
②医療との連携とリハビリテーション		5	医行為の考え方、一定の要件の下に介護福祉士等が行う医行為訪問介護、施設における看護と介護の役割・連携リハビリテーションの理念
③障害者自立支援制度及びその他の制度		5	高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方、障害者自立支援制度の基礎的理解、障害の概念、ICF 代表的な障害者福祉サービス、個人情報保護、成年後見、日常生活支援事業、権利擁護や成年後見の目的、内容について
使用する機器・備品等			

科目番号	5 介護におけるコミュニケーション技術（10時）		
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを意識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者としての最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解させる		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	6	6	教官、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上の要点、家族が抱きやすい心理や葛藤の存在に配慮した介護相談援助の重要性、言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点
②介護におけるチームのコミュニケーション		4	記録の意義、目的、記載方法について
使用する機器・備品等			

科目番号	6 老化の理解（10時間）		
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる 高齢者などの生活上の留意点を理解させる		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①老化に伴うところとからだの変化と日常	6	5	加齢・老化に伴う整理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴を理解させる
②高齢者と健康		5	高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて理解する
使用する機器・備品等			

科目番号	7 認知症の理解（10時間）		
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断と基準となる原則の違いを理解させる 認知症のケアの理念・BPSDを理解させる		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	6	2.5	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方
②医学的側面から見た 認知症の基礎と健康管理		2.5	健康的な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違い 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特徴及びそれに影響する要因 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応 同様に若年性認知症の特徴について
③認知症に伴うこころとからだ の変化と日常生活		2.5	認知症の利用者の心身の重要性和留意点、廃用症候群予防、 認知症の利用者の生活環境の意義やあり方 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則 ポイントについてと具体的なかかわり方
④家族への支援		2.5	家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて グループディスカッション（家族の負担軽減について）
使用する機器・備品等			

科目番号	8 障害の理解（9時間）		
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、 介護における基本的な考え方について理解させる 家族への障害の理解、需要支援、介護負担軽減について学習する		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①障害の基礎的理解	3	3	障害の概念とICF、各障害の内容、特徴及び障害に応じた 社会支援の考え方、ノーマライゼーションの理解
②障害の医学的側面、生活障 害、心理・行動の特徴 関わり支援等の基礎的知識		3	障害の医学的側面、各障害の特徴や支援の考え方 各障害（身体障害・知的障害、精神障害、その他の心身の 機能障害）について学習する
③家族心理、かかわり支援 の理解		3	家族への支援（障害の理解・受容支援・介護負担の軽減） 障害受容のプロセスと基本的な介護の考え方
使用する機器・備品等			

科目番号	9 ところとからだのしくみと生活支援技術（87.5時間）		
指導目標	<p>会議技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護の実施できるようにする</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる</p>		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①介護の基本的な考え方	80	5	倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）法的根拠に基づく介護
②介護に関するところのしくみの基本的理解		5	人の記憶の構造や意欲についての理解と適切な支援
③介護に関するからだのしくみの基本的理解		5	からだのしくみ、人体の構造やボディメカニクスを活用した移乗の体験
④生活と家事		5	家事と生活の理解、家事援助の基本的知識について高齢者・障害者に提供する調理案の作成
⑤快適な居住環境整備と介護		5	快適な居住環境に関する基礎知識、家庭内での事故（バリアフリー）、福祉用具に関する留意点と支援方法
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		5	整容の意義、基礎知識、支援技術について
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		5	移動、移乗に関する基礎知識・からだのしくみ・用具と活用法さまざまな移乗・体位交換・車いす・杖歩行
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		5	食事の意味や環境整備、食事関連の用具の活用法 食事介助の実技演習にて理解を深める
⑨入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		12.5	入浴や清潔保持の意味や環境整備、用具と活用方法 全身清拭や部分浴や入浴介助の実技演習にて理解を深める
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		10	排泄の基本知識、環境整備と用具活用法、解除方法 おむつ・トイレ解除・尿器、差し込み便器等の活用法
⑪睡眠に関した心と体のしくみと自立に向けた介護		7.5	睡眠や安眠の環境整備方法、福祉用具活用法 福祉用具を活用しての安楽な睡眠の工夫、 環境整備の方法
⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護		2.5	終末期ケアの考え方、対応の仕方留意点、本人・家族への説明、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について理解を深める
⑬介護課程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習		15	介護課程の目的や意義を理解する 個別援助計画の作成、チームアプローチの仕方を学ぶ  事例を基に一連の生活支援を提供する流れを理解する 実技演習にて理解を深める
使用する機器・備品等	車いす、ベッド、シーツ、枕、クッション、タオルケット、ポータブルトイレ、衣類、杖、白杖、タオル、バスタオル、アイマスク ヘアブラシ、櫛、コップ、トロメリン、食器、ストロー、スプーン 手桶、バケツ、紙オムツ、温度計、シャンプー、リンス、ドライヤー ゴム手袋、エタノール、綿棒、ゴミ袋、新聞紙、尿取パッド		

科目番号	10 振り返り（12.5時間）		
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成・学習課題の認識を図る		
項目番号	規定 時間数	実施 時間数	講義内容・演習の実施方法
①振り返り	4	10	業務における基本的態度の視点をもって介護を行うこと 利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について 再確認する
②就業への備えと研修修了後 における継続的な研修		2.5	働く現場における継続的学習を行う キャリアパスやOJTなど理解を深める
使用する機器・備品等			